科目名	科学と人間生活			単位数	2	履修区分	必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	高等学校　改訂　科学と人間生活 (第一学習社)		
履修の条件							
先生からのアドバイス	高等学校における理科系科目の基礎的な内容を幅広く学習します。基本的な事項を中心に学習しますが、一部最先端の内容も含まれます。 2年次以降に履修する科目に関わることも取り扱うので、集中して授業に取り組んでください。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	自然の事物・現象に関わり理科の見方・考え方を働かせて人間生活との関わり方の理解を深めていく。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	観察・実験などを通して人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養う。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	自然の事物・現象に進んで関わり科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法 学習状況の観察	△	△	◎
評価方法 ﾉｰﾄ・確認ﾌﾟﾘﾝﾄ	○	○	◎
評価方法 実験・実習	○	◎	△
評価方法 単元ﾃｽﾄ・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第Ⅲ章　熱や光の科学	・セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につけている。	・熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について、実験を通して科学的に理解している。	・さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習している。
	5	定期考査　①			
	6	第Ⅱ章　生命の科学	・DNAの構造、タンパク質の合成、血糖濃度の調節、免疫のしくみについて理解している。	・ヒトの感覚について興味をもち、ヒトの眼の構造を学習し、視細胞の種類やはたらきについて的確に表現できる。	・実験、観察を通して、人の生命現象について意欲的に学習している。
	7	定期考査　②			
	9				
後期	10	第Ⅰ章　物質の科学	・わたしたちの身のまわりにあるプラスチックや金属の特徴と、その原料について、概ね理解している。	・プラスチックや金属の性質を理解し、その用途や再利用方法等について自分の言葉で表現することができる。	・プラスチックや金属の性質と用途について、実験・観察などを通して科学的に思考でき、再利用の必要性について科学的に認識する態度を身につけている。
		定期考査　③			
	11				
	12				
	1	第Ⅳ章　地球や宇宙の科学	・身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解している	・身近にある河川や湖沼、海に興味をもち、河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、科学的にその形成のようすを表現できる。	・身の回りの景観や日本列島の火山に興味を抱き、地震や火山とマグマの関連性などについて、意欲的に学習している。
		定期考査　④			
	2				
	3				

科目名	物理基礎			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	高等学校　改訂　新物理基礎 （第一学習社）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	数学がある程度得意な人向けの科目です。 物理的な実験や基本的な計算なども行いながら、自然現象を理論的に考えます。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎
	ﾉｰﾄ・確認ﾌﾟﾘﾝﾄ	ー	ー	◎
	実験・実習	○	◎	△
	単元ﾃｽﾄ・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第Ⅰ章　運動とエネルギー 物体の運動	・等速直線運動の速さや移動距離、加速度を計算することができる。 ・記録タイマーの使い方を理解し、得られた打点結果から加速度を求めることができる。	・x－tグラフやv－tグラフから、物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 ・落下運動の特徴を理解し、式やグラフを用いて表現できる。	・身のまわりの物体の運動に関心を示し、位置や変位、速度を理解しようとしている。 ・速度が変化する日常での事象について意欲的に考え、加速度とはどのような物理量であるかを考察しようとする。
	5				
		定期考査　①			
	6	力と運動の法則	・質量と重さの違いを理解し、重力、弾性力を計算することができる。	・力のベクトルの性質を踏まえ、つりあいの式を考えることができる。	・日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理学的に理解しようとしている。
	7	定期考査　②			
	9	仕事と力学的エネルギー	・仕事とエネルギーの関係について計算できる。	・力のする仕事の正、負、0について説明することができる。	・エネルギーについて成り立つ関係を主体的に導出しようとしている。
後期	10	第Ⅱ章　熱 熱とエネルギー	・熱運動と温度との関係を理解し、内部エネルギーの変化、外部とやりとりする仕事、熱を計算することができる。	・熱と温度の違いを説明することができる。	・日常でよく使われる温度と絶対温度との違いを認識し、温度と熱との関係を主体的に考えようとしている。
		定期考査　③			
	11	第Ⅲ章　波動 波の性質	・波の速さ、波長、周期の関係を式で表せる。	・波の伝わり方を説明することができる。	・実験で、波が伝わるようすを意欲的に観察しようとしている。
	12	音波	・うなりや定常波の波長、振動数を計算できる。	・音波が疎密波であること、音速と温度の関係を説明することができる。	・気柱共鳴装置を用いた探究など、積極的に実験に取り組んでいる。
	1	第Ⅳ章　電気 電荷と電流	・オームの法則を用いて、電流、電圧、抵抗のそれぞれの量を求めることができる。	・電流と電圧の関係を表すグラフから、抵抗を読み取ることができる。	・抵抗の直列接続、並列接続の特徴について、自身で考察し、式を導こうとしている。
		定期考査　④			
	2	電流と磁場	・電流が作る磁場、電流が磁場から受ける力について理解する。	・直線電流、円形電流、ソレノイドを流れる電流がつくる磁場を説明することができる。	・電磁波のさまざまな利用例と関連させ、意欲的に学習している。
	3	エネルギーとその利用	・太陽エネルギーや化石燃料を用いた発電方法について理解する。	・様々な発電方法について、その仕組みとメリット、デメリットを説明することができる。	・日常生活と深く関わる電気エネルギーが、どのようにつくられているのかを考察しようとしている。

科目名	化学基礎			単位数	3	履修区分	選択必履修
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	高等学校　改訂　新化学基礎 （第一学習社）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	自然現象の観察、実験などを通して、物質の成り立ちを中心に学習し様々な物質の構成や性質、変化について学びます。環境・技術や生活との関連についても理解を深められるでしょう。3年次以降に「化学」の履修を希望する者は必ず履修しなければいけません。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	自然の事物、現象についての概念や原理、法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法 学習状況の観察	△	△	◎
評価方法 ﾉｰﾄ・確認ﾌﾟﾘﾝﾄ	ー	ー	◎
評価方法 実験・実習	○	◎	△
評価方法 単元ﾃｽﾄ・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　物質の構成 物質とその構成要素	・自然界を構成する物質の粒子について、それらの内部構造や性質、量の測り方についての基本的な知識や手段を理解している。	・物質の成分の検出や原子の電子配置・原子や分子および結晶構造の描写や模型作成などを通じ、分析の基本的な操作方法を習得するとともに、目に見えない原子や分子の世界を的確に表現できる。	・化学の基礎となる様々な物質の構成粒子や、その内部構造についての関心を高めるとともに、化学的に探求する意欲、基礎的な態度を身に付けている。
	5	定期考査　①			
	6	化学結合	・化学結合を、電子配置と関連付けて理解している。	・化学結合について、電子の受け渡しや共有の観点から的確に表現することができる。	・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。
	7	定期考査　②			
	9				
後期	10	第2章　物質の変化 物質量と化学反応式	・化学反応や、酸性・塩基性の水溶液の諸性質、水素イオン濃度に関する定性的および定量的な分析、化学反応に伴う電子の授受などについての基本的な知識や手段を理解している。	・化学反応とその量的関係、電子の授受という観点から学ぶことにより、自ら疑問点を見いだし、分析的、総合的に解決できる。	・化学反応とそれに伴う熱の出入り、酸性、塩基性の水溶液の諸性質、水素イオン濃度に関する定性的および定量的な分析、化学反応に伴う電子の授受などについて関心を高めるととともに、化学的に探求する意欲、基礎的な態度を身につけている。
		定期考査　③			
	11				
	12	酸・塩基とその反応	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。	・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。	・酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとしている。
	1				
		定期考査　④			
	2	酸化還元反応	・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。	・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。	・燃焼、金属の溶解や腐食などの酸化還元反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとしている。
	3				

科目名	化学			単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	改訂版　新編　化学 (数研出版)		
履修の条件	化学基礎を履修済みの生徒を対象としています。						
先生からのアドバイス	極めて専門的であるため、文系と理系にコース分けするような学校でも、理系の生徒の一部しか選択しない科目です。化学基礎の内容が十分に理解できている人でないと、選択しても習得は難しいでしょう。計算をする必要もあるので、数学のスキルも必要になってきます。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		化学の基本的な事物、現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究するための能力を養う。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め科学的に探究するための技能を身につけるようにする。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、化学的に探究しようとする態度を養う。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎
	ﾉｰﾄ・確認ﾌﾟﾘﾝﾄ	○	○	◎
	実験・実習	○	◎	△
	単元ﾃｽﾄ・定期考査	◎	○	ー

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第2編　物質の変化 化学反応とエネルギー	・電池や電気分解についてその仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・金属の製錬について金属により異なることを理解する。 ・溶液と平衡について身近な現象を通して理解する。	・それぞれの用途によって使用されている電池が異なることを理解する。 ・鉄の製錬が酸化還元反応と結びついていることを知り、溶鉱炉やテルミット反応について知る。	・いろいろな電池や電気分解の装置を作り理解している。 ・物質の変化量と電気量の関係を実験して学ぼうとしている。 ・溶液とその性質について実験を通して理解している。
	5	電池と電気分解 化学反応の速さとしくみ			
		定期考査　①			
	6	第1編　物質の状態 物質の状態変化	・物質の状態がエネルギーの出入りを伴うことを知り、温度や圧力との関係について学ぶ。	・圧力や温度と気体の体積について知り、条件が変わるときの求め方ができるようにする。	・気体の体積と圧力や温度との関係を実験を通して学びその意味を理解している。
	7	定期考査　②			
	9				
後期	10	第3編　無機物質 金属元素（Ⅰ）-典型元素- 非金属元素	・代表的な典型元素や繊維元素について利用例を通して規則性や関連性を理解する。	・実験や観察を通してそれぞれの性質について具体的に理解する。	・簡単に確かめられる実験などを通して性質について確かめようとしている。
		定期考査　③			
	11	第4編　有機化合物 有機化合物の分類と分析	・有機化合物についてどのようなグループがあるか知り、それぞれの特徴や利用について知る。	・有機化合物について、どのように日常生活で利用されているかを知り確認する。	・代表的な有機化合物について性質や特徴を実験により確かめようとしている。
	12	脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物			
	1				
		定期考査　④			
	2	第5編　高分子化合物 高分子化合物の性質 天然高分子化合物	・高分子化合物の定義や分類、構造及び重合方法について理解する。	・化学式や名称、構造、性質に基づいて高分子化合物を分類することができる。	・高分子化合物の構造、反応性、利用例などに興味を持とうとしている。
	3	合成高分子化合物			

科目名	生物基礎			単位数	3	履修区分	選択必履修
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	高等学校　改訂　新生物基礎 （第一学習社）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	私たちの回り（環境）には、たくさんの生物がいます。そして、私たち自身も生物の一種です。生物はどのような構造や機能を持っているのか、病気の原因や自己を守る仕組みはどうなっているのか、生物どうしの相互作用によって形成される生態系とはどのようなものか、ということを学びます。多様な生物と上手に生きていくために、生物基礎を学びましょう。						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	必要な知識を習得し、知識を生かして、探究する技能を習得できている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	生物学的なアプローチによって、様々な問題を解決しようとする科学的なプロトコルを身につけている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	興味を持って学習に取り組み、積極的に質問し、学習の結果をノートにまとめまている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法　学習状況	○	◎	◎
評価方法　ノート・プリント	○	○	◎
評価方法　実験・体験的学習	◎	○	○
評価方法　定期考査	◎	◎	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第１章 生物の特徴・生物にみられる共通性	・生物の共通性と多様性について理解できたか。生物体のエネルギー収支について理解している。 ・顕微鏡の使い方、オオカナダモの細胞の観察、ミクロメーターの使い方、浸透圧による細胞の変化の観察ができる。	・教科書の内容を把握している。 ・教科書の図を説明できる。 ・定期考査で自分の学習状況を客観的に評価できる。 ・他の生徒と協力して問題解決に取り組んでいる。 ・自分たちで得た結論を、分かりやすく発表できる。	・授業や実験、探究的活動に積極的に参加している。 ・授業内容をノートに記録している。 ・実験の結果をレポートに記録している。 ・論理的な質問をしている。 ・発問に対して、合理的な反応ができる。 ・学習結果を文章にまとめることができている。
	5	生物の特徴・生物のエネルギー 定期考査　①			
	6	実験 顕微鏡の操作法			
	7	定期考査　②			
	9	第２章 遺伝子とその働き 実験　DNAの抽出	・遺伝子と形質の関係について、正しく理解している。 ・DNAの構造と機能について理解している。		
後期	10	第３章 ヒトのからだの調節 恒常性 定期考査　③	・人体の恒常性の維持について、自律神経と内分泌系、体を守る免疫系の役割を理解している。 ・鶏の脳を観察し、恒常性に関わる機能を理解している。		
	11				
	12	第４章 生物多様性と生態系	・生態系（エコシステム）の基本概念を理解している。 ・生態系の基本となる植物群系の基礎を習得できている。 ・生物多様性の重要性を理解し、我々に課された諸問題について自覚できている。 ・水質の測定方法を理解している。		
	1	生物多様性と生態系植物と遷移 定期考査　④			
	2	生物多様性と生態系生態系とその保全			
	3	実験　水質検査			

科目名	生物基礎			単位数	2	履修区分	選択必履修
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		高等学校　改訂　新生物基礎 （第一学習社）	
履修の条件							
先生からのアドバイス	私たちの回り（環境）には、たくさんの生物がいます。そして、私たち自身も生物の一種です。生物はどのような構造や機能を持っているのか、病気の原因や自己を守る仕組みはどうなっているのか、生物どうしの相互作用によって形成される生態系とはどのようなものか、ということを学びます。多様な生物と上手に生きていくために、生物基礎を学びましょう。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		必要な知識を習得し、知識を生かして、探究する技能を習得できている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	生物学的なアプローチによって、様々な問題を解決しようとする科学的なプロトコルを身につけている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	興味を持って学習に取り組み、積極的に質問し、学習の結果をノートにまとめまている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法	学習状況	○	◎	◎
	ノート・プリント	○	○	◎
	実験・体験的学習	◎	○	○
	定期考査	◎	◎	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第１章 生物の特徴・生物にみられる共通性	・生物の共通性と多様性について理解できたか。生物体のエネルギー収支について理解している。 ・顕微鏡の使い方、オオカナダモの細胞の観察、ミクロメーターの使い方、浸透圧による細胞の変化の観察ができる。	・教科書の内容を把握している。 ・教科書の図を説明できる。 ・定期考査で自分の学習状況を客観的に評価できる。 ・他の生徒と協力して問題解決に取り組んでいる。 ・自分たちで得た結論を、分かりやすく発表できる。	・授業や実験、探究的活動に積極的に参加している。 ・授業内容をノートに記録している。 ・実験の結果をレポートに記録している。 ・論理的な質問をしている。 ・発問に対して、合理的な反応ができる。 ・学習結果を文章にまとめることができている。
	5	生物の特徴・生物のエネルギー 定期考査　①			
	6	実験 顕微鏡の操作法			
	7	定期考査　②			
	9	第２章 遺伝子とその働き 実験　DNAの抽出	・遺伝子と形質の関係について、正しく理解している。 ・DNAの構造と機能について理解している。		
後期	10	第３章 ヒトのからだの調節 恒常性 定期考査　③	・人体の恒常性の維持について、自律神経と内分泌系、体を守る免疫系の役割を理解している。 ・鶏の脳を観察し、恒常性に関わる機能を理解している。		
	11				
	12	第４章 生物多様性と生態系	・生態系（エコシステム）の基本概念を理解している。 ・生態系の基本となる植物群系の基礎を習得できている。 ・生物多様性の重要性を理解し、我々に課された諸問題について自覚できている。 ・水質の測定方法を理解している。		
	1	生物多様性と生態系植物と遷移 定期考査　④			
	2	生物多様性と生態系生態系とその保全			
	3	実験　水質検査			

科目名	生物			単位数	4	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	高等学校　生物 （第一学習社）		
履修の条件	生物基礎を修得済みの生徒を対象としています。						
先生からのアドバイス	極めて専門的であるため、文系と理系にコース分けするような学校でも、理系の生徒の一部しか選択しない科目です。生物基礎の内容が十分に理解できている人でないと、選択しても習得は難しいでしょう。内容に生化学分野が含まれているため、化学基礎の知識も必要です。医学、薬学、医療系、理学生物、農学などへの進学を目指す人に向いています。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		必要な知識を習得し、知識を生かして、探究する技能を習得している。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	生物学的なアプローチによって、様々な問題を解決しようとする科学的なプロトコルを身につけている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	興味を持って学習に取り組み、積極的に質問し、学習の結果をノートにまとめている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法	学習状況	○	◎	◎
	ノート・プリント	○	○	◎
	実験・体験的学習	◎	○	○
	定期考査	◎	◎	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	1生命現象と物質 ①細胞 ②タンパク質	・電子顕微鏡レベルでの細胞の構造を習得できている。 ・タンパク質の構造と機能を理解している。 ・ATPとエネルギー代謝の基礎を再確認できている。	・教科書の内容を把握している。 ・教科書の図を説明できている。 ・定期考査で自分の学習状況を客観的に評価できている。 ・他の生徒と協力して問題解決に取り組んでいる。 ・自分たちで得た結論を、分かりやすく発表できている。	・授業や実験、探究的活動に積極的に参加している。 ・授業内容をノートに記録している。 ・実験の結果をレポートに記録している。 ・論理的な質問をしている。 ・発問に対して、合理的な反応ができている。 ・学習結果を文章にまとめることができている。
	5	③代謝とエネルギー			
		定期考査　①			
	6				
	7	定期考査　②			
		②遺伝情報の発現	・DNAの構造と機能、クリックのセントラルドグマ、遺伝子の発現調節などについて理解している。		
	9				
後期	10	3生殖と発生 ①有性生殖 ②動物の発生	・生殖の意義と、生殖方法の進化（多様化）について理解しえちる。 ・発生の基本的なプロセスを、動物、植物のそれぞれについて理解している。		
		定期考査　③			
	11	③植物の発生			
	12	4生物の環境応答 ①刺激の受容と反応	・脳や神経による情報処理と筋肉などによる動物の反応を理解している。 ・環境の変化に対する植物の反応について理解している。		
	1	②動物の行動 ③植物の環境応答			
		定期考査　④			
	2	5生態系と環境	・生態学と環境科学の基礎を理解している。		
	3	6進化と系統	・進化と系統分類の基礎を理解している。		

科目名	地学基礎			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	高等学校　改訂　地学基礎 （第一学習社）		
履修の条件							
先生からのアドバイス	地球や地球の活動、天気や宇宙、そして生物の変遷などについて学ぶ学問です。生物や地理、物理などと関連する分野も学ぶとても幅広い知識を得ることができる科目です。						

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	地学的な事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:Bに到達していない。
評価方法	学習状況	○	◎	◎
	ノート・プリント	○	○	◎
	実験・体験的学習	◎	○	○
	定期考査	◎	◎	○

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第１章　地球のすがた 地球の概観	・エラトステネスによる測定をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。 ・プレートの分布や種類、プレートの動き、大陸移動説について理解し、知識を身につけている。	・地形図を利用した実習を通して、地球の形について考察することができる。 ・プレートの境界で形成される大地形について、プレートの運動との関連を考察することができる。	・地球の形と大きさの測定の歴史について意欲的に学習しようとしている。 ・プレートの分布と運動について関心をもち、意欲的に学習しようとしている。
	5	プレートの運動 定期考査　①			
	6	第２章　地球の活動 地震	・地震の発生と分布の特徴について理解している。 ・火山の形成過程について、地下のプレートと関連させて理解している。	・世界の火山分布と日本の火山分布の資料から、マグマの発生する場所について、地下のプレートと関連させて考察することができる。	・地震の発生と分布の特徴に関心をもち、地震のおこるしくみについてプレートの運動と関連させて、意欲的に探究しようとしている。
	7	定期考査　②			
	9	第３章　大気と海洋 地球のエネルギー収支	・大気のエネルギー収支、温室効果、放射冷却を理解し、知識を身に付けている。	・緯度ごとのエネルギー収支を示すグラフを作成し、グラフから地球の南北の熱の輸送について考察することができる。	・大気の大循環に関心をもち、各地域での大気の動きについて意欲的に学習しようとしている。
後期	10	大気と海水の運動 定期考査　③			
	11	第４章　宇宙と地球 宇宙と太陽の誕生	・宇宙の始まり、銀河系の構造について理解し、知識を身に付けている。 ・太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。	・太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。	・ビッグバン、元素の誕生や宇宙の晴れ上がり、恒星・銀河に関心をもち、宇宙の始まりについて意欲的に探究しようとしている。
	12	太陽系と地球の誕生			
	1	定期考査　④			
	2	第５章　生物の変遷と地球環境 地層と化石	・先カンブリア時代から新生代第四紀までの、地球と生物の変遷を理解し、知識を身に付けている。	・地球の酸素濃度や二酸化炭素濃度のグラフから、当時の環境や、生物の進化・絶滅について考察することができる。	・地質時代における生物界の移り変わりのようすに関心をもち、地球の生い立ちを意欲的に探究しようとしている。
	3	地球と生物の変遷			